

消防団たずね歩き

目指せ、地域に根付いた消防団!

●幼稚園児 一斉津波避難訓練

長田消防団第7分団では、日頃から地域の方々さまざまな訓練をしています。東日本大震災の教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震に備えて津波避難訓練もおこなっていましたが、多くの子どもたちの安全・迅速な避難が課題となっていました。そこで9月25日、真陽地区防災コミュニティ主催で、地域内の幼稚園(乳幼児を含む園児404人、教職員37人)の「一斉避難訓練」がおこなわれました。

●垂直避難か? 水平避難か?

当初、園舎の屋上か近くのマンションへの「垂直避難」が計画されていましたが、神戸大学都市安全研究センターの北後明彦教授の研修を受講し、水が来ない場所への「水平避難」をおこなうことになりました。実は、私は消防団員でもあり、幼稚園の副園長という立場でもありましたので、子どもたちの津波の後の「心のケア」や「保護者との合流」等を考えてのことでした。

●園児をグループ化して検証を実施

避難にあたって、「年齢による歩く速度の違い」や「行動する際の目的意識の違い」をどう克服するかを考えました。約400人が2列で歩く時の列の長さや道路環境・交通状況等を検討し、また、この訓練結果を今後に生かすためにも年齢の組み合わせなども考

慮し、色々なグループをつくって実施しました。私たち消防団員は自治会・警察・消防署とともに交通整理等をおこないながらサポートしましたが、園児たちは目的地までの650メートルを33分ほどで歩くことができました。

●地域とともに、安全で安心なまちへ

この訓練により、「いかに早く情報を集めて安全な避難ルートを選定するか」、「どのような人員・体制で避難誘導するか」が大事であると思いました。また、幼児の避難に際して考慮しなければいけないのが、学期によっては、幼児の成長により避難に要する行動力に違いがあることです。その時々に応じて消防団として、また私自身は幼稚園の教員として、園児とともに多くの地域の方々安全に避難できるよう、これからも地域の方々と連携して訓練を実施していきたいと思ひます。そして、若い団員たちとともに指定避難場所になっている公園の防火水槽や可搬式ポンプの点検などをおこないながら訓練に励み、地域に根付いた消防団を目指していきたいと思ひます。



(長田消防団第7分団 分団長 赤木康孝)



地域に根付いた消防団を目指しています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

